

家庭の教育力を考える！

社会教育委員会からの提言 パートⅡ

「あなたの家庭にもっと望むことがあるか」と子どもたちに聞いたところ、どの年代の子ともでもいけばんだ多かった答えは「家族のみんなが楽しく過ごす」でした。そんな当たり前のことを子どもたちが願わざるを得ない現実を、親として真剣に受け止めたいものです。

必要なモノさえ与えていれば子どもは育つ、と思えた時代もありましたが、いまや楽しい家庭は家族が意識的に協力し合わなければなかなか得られません。子どもにとって心安らぐ居場所になっているかどうか、家庭を見つめなおしてみましよう。

「地域ぐるみで子育てを」

社会教育委員代表 木下英美

先日、友人がお孫さんと散歩しているのに出会いました。少し会わなかった間に随分と成長した姿を見るにつけ月日の経つのは早いものだと思づく感じました。

このような思いは、多くの方が経験されたことと思います。最近、青少年犯罪の低年齢化が大きな社会問題となっており、被害者はもちろんのこと加害者、そしてその家族までもが不幸になっています。

このような社会情勢の中、須恵町では身近な小学校を基盤として、校区単位で「校区コミュニティ」を推進しています。その活動の一つとして、毎年秋には各小学校において「コミュニティまつり」が開催され、地域の子どもからお年寄りまでがお祭りを楽しまます。また、学校においてはゲストティーチャーとして地域の方が教壇に立ち、子どもたちと学びを通して交流しています。このように学校・家庭・地域の連携の中で子育てが進められています。

「子は宝」です。少子化が進む

今、未来を担う子どもたちを保護者はもちろんのこと、みんな育てていくものではありませんか。数年後、友人のお孫さんが一段と成長し、元気に楽しく遊んでいる姿を心に描いています。

「子育て・親育ち」

社会教育委員 印藤光江

ここ数年、新聞やテレビなどでよく取り上げられている家庭の教育力について、普段の生活の中で身近に感じることはありませんか。

「今どきの子どもは：」という前に親にも生活習慣、社会性が身についていないようです。

ある雑誌に「基本的生活習慣とは」という十項目が載っていました。「早



恥をしのんでペンを取らせていただきました。

私はいろんな「失敗」をしてきました。子どもの夜泣きがきついとき布団の上に放り投げたことがあります。そのときは夫が抱きとめてくれました。

また、子どもから「くそばば」と言われたことがあります。その当時、しついで子どもたちにうるさく言っていたときで、子どもにとっては「もうやめて」と言いたかったと思います。

その他にも、人に言えないいろんな失敗をしてきました。このことから子育てに関して私の経験から感じたことを記したいと思います。

- ・子育てでは、母親だけがするのではない。
- ・父親の育児参加を。
- ・男の子が中学生になったら、お父さんの出番。
- ・学校の先生の協力も大きな助け。
- ・「子育ては親育て」又「子は親の鏡」とも言います。

・母親は、家庭のことだけでなく社会参加を。

このように、気持ちに余裕を持つことで子どもが何を伝えたいのか、何を望んでいるのかの信号を見落と

起き・朝食・歯磨き・排便・身なり整理・挨拶・手伝い・テレビゲームをやり過ぎない・整理整頓・早寝これらは、朝起きてから寝るまでに必要な基本的事項で、子どもに身につけさせなければならぬ生活習慣ですが、果たしてきちんとできているでしょうか。

口で言っても聞かないからではなくて、言っても聞かせて、して見せて、一緒にやらないと身につかないようです。

子どもは親の姿を見て育ちます。小さい時から模倣を繰り返して成長していきます。「子どもは親の鏡」です。

また、青少年の凶悪犯罪や子どもの虐待が社会問題となっています。「人を思いやる気持ち」「命の大切さ」が身につけていないことも一つの原因と思われる。

幼児期から子ども同士の遊びや大人との交流の中で、人と人との関わり方や社会のルールを覚える中で、人の痛みがわかる人間に育っていくのですが、人間関係を上手に築けないばかりに他人や自分を傷つけてしまっています。

そこで大切なのは、まず、親子が情愛に満ちた信頼関係を築くこと



さないよう心がけることができるのではないのでしょうか。

サイレントベビー

社会教育委員 森 悠子

アンビシャス広場に関わって二年半になります。

アンビシャス広場とは、子どもの居場所を作り、地域の人々が見守って行くという運動です。

この間、子どもたちを通して感じたことは、自己中心で相手の話を聞こうとしない子どもがやたら多いと言ったことです。

少子化の影響が他人とのコミュニケーションがうまくできなく、子ども同士で遊べずにすぐ大人と話をしたがる子ども。

家庭において、親子関係の希薄さなのでしょうか。テレビ、ビデオで長

です。

子どもが心身ともに成長していくことが親の願いです。子育てとともに、親自身の成長、親育ちも大切ではないでしょうか。

家庭教育は「食」から

社会教育委員 三丸佐代子

「食」の崩壊が深刻な問題となってきました。先日、ある女子高前のコンビニで生徒たちがお弁当を買っていたのですが、そこにいた数十人の子たちが皆、おにぎり一個、あるいは菓子パン一個に菓子類の組み合わせでした。これでは成長に必要なビタミンやミネラルはほとんど取れません。それどころか過剰な塩分、糖分、添加物の摂取は病気の元でもあります。

便利さと手軽さで家庭の食卓にまでコンビニ弁当が侵入してきているとも聞きます。また、食費を削ってレジャー費に充てる家庭もあるといわれています。

この「食」を考える時、私には忘れられない思い出があります。新しく開校した第三小学校に通い始めてまもなく、息子が朝グズグズするようになったのです。これは何かある

時間子守をさせた結果と言われる。サイレントベビー。親の前ではよい子でいようとする子ども、つまり子どもが親に甘えることができない。

子どもの甘えは、心の安心を作る大事なことです。

それとは逆に、親の過保護・過干渉も気になります。

朝、一人で起きれない子ども。忘れ物を学校へ届ける親など、大人になって一人前になつてほしいと言われるが、そのためには「自信」を育てることが大切ではないでしょうか。それには、子ども自身で考えさせ、行動し、失敗したり回り道をしながらやり遂げることで自信をつけていくと思います。

また、子どもを叱れない親、真剣に叱ると言うことは、子どもに「あなたは大切な存在なのよ」というメッセージを伝えることです。

家庭の中で、子どもも家族の一員としての責任ある役割を持たせ、そして子どもの話を聞いてやることは大事なことです。

子どもは親の後姿を見て育つと言われます。地域の大人が今、何ができるのかを考え動いてみたいと思います。

